

国内外の図書館における 多文化サービスの調査結果—①国内

国立国会図書館関西館アジア情報課
福山潤三

目次

1. 調査概要
2. 公共図書館
 - 2-1. 公共図書館の多文化サービス事例：福岡市
 - 2-2. 多文化サービスに見られる傾向
3. 大学図書館
 - 3-1. 大学図書館の留学生支援サービス事例：
立命館アジア太平洋大学ライブラリー
 - 3-2. 留学生支援サービスに見られる傾向

1. 調査概要

- ▶ 平成25-26年度に関西、九州を中心に国内関係機関の調査を実施。
- ▶ 多文化サービスの概要と今後の課題のほか、次の二点について聴取。
 - ①所属機関の施策・方針との関係
(自治体の多文化共生施策、大学の留学生施策)
 - ②所属機関内の他部門との連携

訪問機関

■ 公共図書館

大阪市立生野図書館、**福岡市総合図書館(+福岡市総務企画局、国際交流財団)**

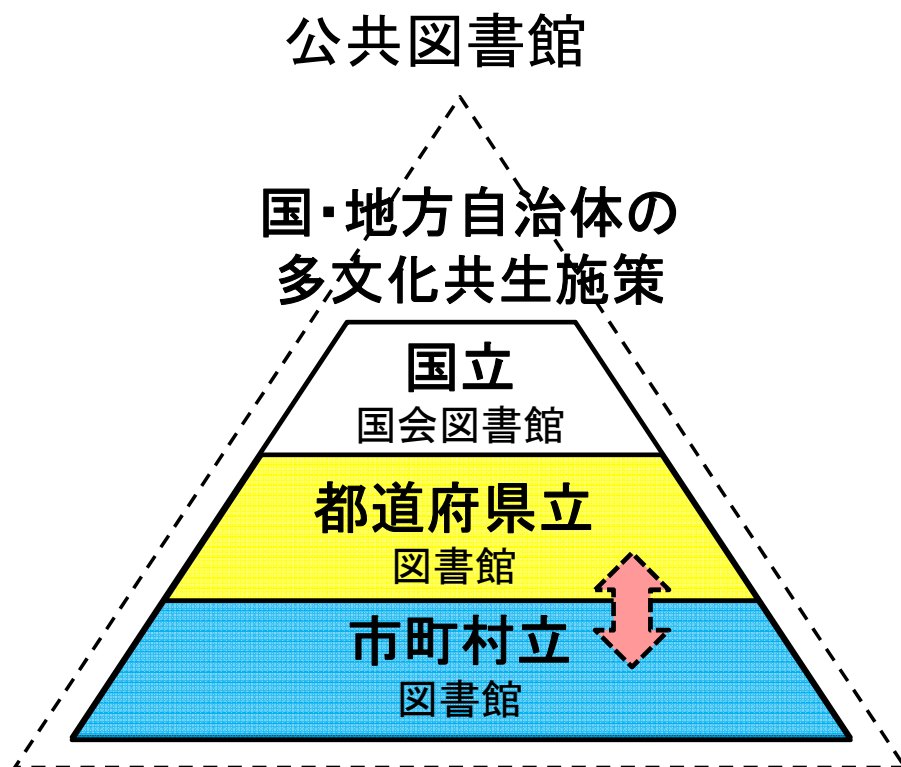
■ 大学図書館

大阪大学外国学図書館、九州大学附属図書館、**立命館アジア太平洋大学ライブラリー**

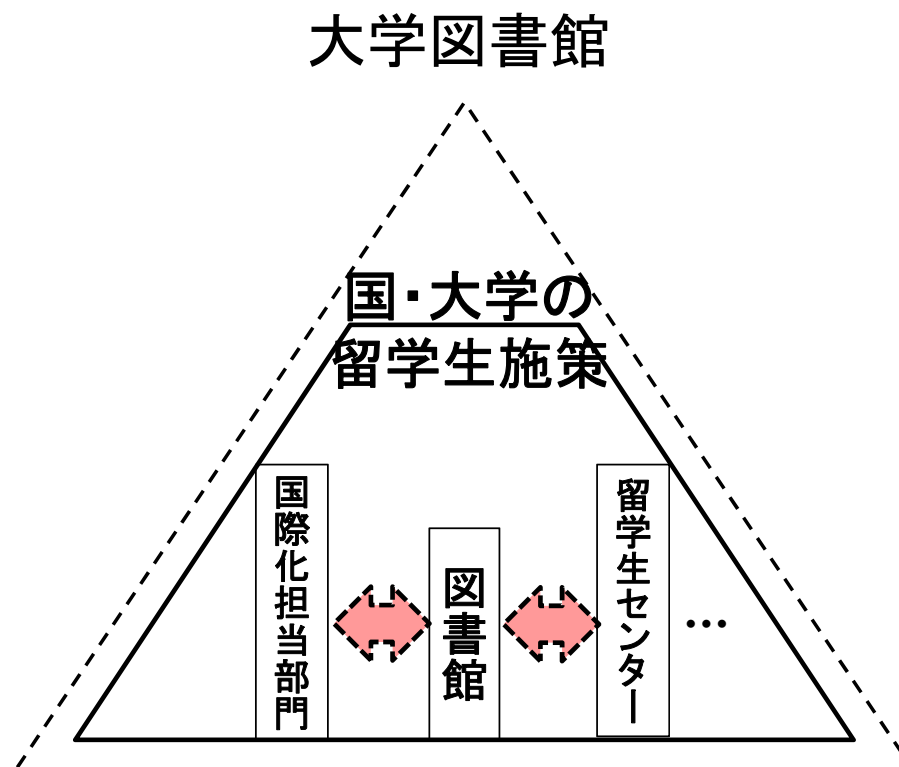
■ 専門図書館

アジア図書館、国際交流基金関西国際センター図書館

1. 調査概要



- ・施策と図書館の連携が弱い？
- ・図書館間の連携に問題はないか？



- ・学内組織と図書館の連携が弱い？

2-1. 公共図書館の多文化サービス事例：福岡市

(1) 福岡市の多文化共生施策

■ 外国籍住民の状況

- ▶ 住民の1.83%にあたる27,000人が外国人(平成25年度)。
- ▶ 中国、韓国籍が多いが、近年はネパール、ベトナム国籍が増加。

■ 市の多文化共生施策

- ▶ 「福岡市国際化推進計画」(平成15年6月策定。計画期間平成27年まで)の下、「多文化共生の地球市民の都市」を目指す。
- ▶ 国際交流協会等の関連機関で、以下の施策を実施。
 - ① 市民の国際理解促進(国際交流事業、人権啓発事業等)
 - ② 外国人住民の定着支援
(行政情報の多言語発信、医療通訳、日本語学習機会の確保等)



国際交流財団が運営する情報提供機関「レインボープラザ」 <http://www.rainbowfia.or.jp/fia/> ▶

2-1. 公共図書館の多文化サービス事例：福岡市

(2) 福岡市総合図書館の多文化サービス

- ▶ 「福岡市新図書館基本計画」(平成3年2月策定)に基づき、平成8年に開館。
- ▶ 図書資料、映像資料の各部門で多文化サービスを実施。

① 図書資料部門

- ・国際資料部門で、国連寄託図書館の運営、国際資料の整備・提供等を担当。
- ・所蔵68,000点(平成25年度)。
- ・職員4名(嘱託職員。中国語1、韓国語1、英語・国連寄託資料2)。

② 映像資料部門

- ・アジアを中心とする映画の収集・保存等を担当。

2-1. 公共図書館の多文化サービス事例：福岡市

(3) 福岡市総合図書館の多文化サービス：国際資料部門

- ▶ 外国人の利用も多く、日本語、英語のほか、中国語、韓国語資料等も利用される。
- ▶ 教養・娯楽書だけではなく、研究書へのニーズもある。
当館や九州大学附属図書館等、他館の蔵書も活用しつつ対応。
- ▶ 九州地域のハブとして機能。
- ▶ 課題は以下二点
 - ①利用者ニーズの把握
 - ②職員の専門性の維持・向上



国際資料コーナー <http://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/spots/guide/1/2#detail2>

2-2. 多文化サービスに見られる傾向

(1) 自治体内での図書館の位置づけ、関係部署との連携

- ▶ 自治体の多文化共生施策の中で、図書館の位置づけは必ずしも明確ではない。
- ▶ 図書館間の連携に比べると、自治体内の関係機関との連携が弱い。

(2) 多文化サービスの課題

- ① 出版情報の収集
- ② 利用者ニーズの把握
- ③ 職員の専門性の維持・向上

課題の一部を、外国人住民のボランティア参加等により解決している例もある。

3-1. 大学図書館の留学生支援サービス事例： 立命館アジア太平洋大学ライブラリー（大分県別府市）

(1) 大学の概要

- ▶ 「国際相互理解」「アジア太平洋の未来創造」等を理念として2000年に開学。
- ▶ 教員・学生の40-50%が外国人。日・英両言語での科目開講90%。
- ▶ 平成26年度「スーパーグローバル大学創成支援：タイプB(グローバル化牽引型)」に採択。

(2) 図書館の留学生支援サービス

- ▶ 研究より教育に重点を置き、授業で用いる日本語・英語の教材を中心に収集。アジア言語資料の優先度は低い。
- ▶ 日英両言語の蔵書不足が課題。
- ▶ 職員の英語対応に問題はない。



ライブラリー外観 <http://www.apu.ac.jp/home/library/content/>

3-2. 留学生支援サービスに見られる傾向

(1) 大学の方針、関係部署との連携

- ▶ 大学の国際化により、英語重視の傾向が強まる。
それに伴い、アジア言語資料への需要は相対的に低下。
- ▶ 大学図書館と学内組織（国際化担当部門、留学生センター等）との役割分担は必ずしも明確ではない。

(2) 留学生支援サービスの課題

- ① 出版情報の収集
- ② 留学生に対する情報発信
- ③ 職員の専門性の維持・向上

課題の一部を、留学生スタッフの関与で解決している例もある。
(例：東北大学図書館の留学生コンシェルジュ等)